

中部地区 公民館だより

第173号

令和7年7月1日発行
上山市中部地区公民館
上山市十日町4番11号
TEL 673-2588
FAX 673-0379

できることからやってみっべ

中部地区会長会



6月12日(木)、中部地区会長会で上山城周辺清掃を行いました。“上山を訪れる観光客を気持ちよく迎えたい”との思いから、清掃活動を始めて10年目となりました。荒井会長から「怪我や熱中症に気を付けて無理のない範囲でお願いします」と挨拶があり、2班に分かれて草刈りや草むしりに汗を流しました。



1時間程度の清掃でしたが、ゴミ袋が山積みになり、お城の周辺がきれいになりました。除草後のお城をバックに記念写真をパチリ。「微力だけれど、やるのとやらないのでは大違いだ」と笑顔の表情が印象的でした。

小学生の登校見守りと時間帯が重なるため、残念ながら参加できない会長さんもいますが、今後も継続していきたいと思います。暑い中、大変お疲れさまでした。

幻想的な光に誘われて

6月21日(土)、体育レクリエーション事業の街歩きウォーキング②でホタル観賞に行きました。上山小学校児童、保護者と地区の方29名の参加があり、賑やかに出発しました。途中、上山小学校4年生が上山の良いところを描いたという行燈を見学し、子どもの素直な感覚に感動しました。講師の牧野義文さんから、ホタルの生態やホタルが飛びやすい自然環境などについて教えていただき、「天候や気温にもよるが、8時過ぎころにはホタルが飛び交う幻想的な世界が見られますよ」と説明がありました。明るいうちに観賞ポイントに到着し、暗くなるのを待ちました。予想時間頃になると、1匹、また1匹と多くのゲンジボタルが光を放ち飛び交い、素晴らしい光景を見ることができました。心洗われるひと時を過ごし、これから先もこの環境が保たれ、長くホタルが見られる地域でいられるようにと願いました。



市営月岡駐車場に集合



4年生が描いた行燈



ホタルのエサ
カワニナ観察中

防災講座

6月4日(水)、「地区防災計画について」と題して庶務課危機管理係の齋藤係長、佐藤さん、菊池さんを講師に防災講座を開催しました。

地区防災組織としての計画や決め事、災害の種類によって対応のしかたが異なることなど、日頃からの備えが大事だということを学びました。

参加者の中には、他県の災害発生場所へ派遣された方の体験談を聞きたいという要望もありました。



齋藤係長 菊池さん 佐藤さん



公民館清掃

6月7日(土)、公民館利用団体の方に協力をいただきながら、公民館大掃除を行いました。

廊下やギャラリーなど、日頃行き届かないところの掃除を中心をお願いしました。

朝から暑い日でしたが、公民館大掃除に協力いただきありがとうございました。



はこべの会 1日研修

6月17日(火)、19日(木) 2回に分けて、はこべの会 1日研修で『加茂水族館と善宝寺』に行ってきました。

加茂水族館では約80種類の色とりどりの幻想的なクラゲの世界を堪能しました。ひれあしプールではアザラシ、アシカのステージショーを楽しみました。

善宝寺では滞在時間が短かったため各自、自由行動で見学してもらいました。五重塔、五百羅漢堂や龍王殿、人面魚の棲む貝喰池などを見学してきました。

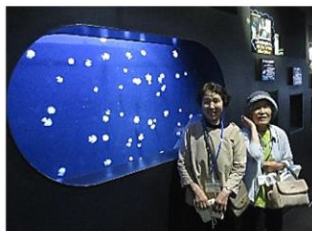
2日間共、天気にも恵まれ楽しい時間を過ごしました。



加茂水族館にて



善宝寺にて



参加者募集

モルック講習会

健康ポイント対象事業 20P

日 時	7月25日(金)	午前10時～12時
場 所	中部地区公民館 多目的ホール	
講 師	かみのやまスポーツクラブ	
対 象	中部地区在住の方	
募集人数	15人程度	
申込締切	7月18日(金)	
参加料	無料	
その他	うち履きをお持ちください 飲み物は公民館で準備します	



公民館からのお知らせ

キッズオープンデー

8月3日(日)、上山小学校学区内の小学生以下のお子さんを対象に午前9時から午後3時まで、中部地区公民館にて『キッズオープンデー』を開催します。

入場は無料です。うち履きをお持ちください。開催している時間帯でしたら、入退場は自由ですのでお好きな時間に遊びにきてください。小学2年生以下のお子さんは保護者同伴でお願いします。

昨年は、水風船、わたあめ、駄菓子屋さん、紙飛行機飛ばし、輪投げなどをして遊びました。

今年もいろいろ企画中です。ぜひ遊びに来てください。お待ちしております。

7月のサロン

暑い日、麺はいかがですか？

日 時	7月16日(水)
場 所	公民館 多目的ホール
参加費	300円
締切り	7月10日(木)

申込み後のキャンセルは7月14日(月)午前10時まで連絡してください。

7月の百歳体操

3、10、17、24、31日

7月の予定

- 6日(日) 山形ベンチャーズ演奏会
- 9日(水) 1日研修(ミツバチの観察)
- 11日(金) はこべの会 学習会③
スポーツ教室(モルック)
- 16日(水) はこべの会サロン

熱中症対策として

「クーリングシェルター」を開設中です

帰宅途中や外出時に一時的に暑さから回避する場所として、公民館ギャラリーを開放しています。お気軽にご利用ください。期間は10月22日(水)まで。

藤井松平氏シリーズ5. 「松平信亨・信古時代補遺」永護之宮④先鋭な対立!?

～「寛政の政変」と「寛政の改革」

やや片苦しい紐解きになるがご容赦いただきたい。幽閉獄死させられた中村新右衛門「君主への忠」「親への孝」の心情は想像することが出来る。儒教の『孝経』第一、「身体髪膚これを父母に受く、毀傷せざるは孝の始めなり。」「孝」は、親に仕え、君主に仕えること。『詩経』「なんじの祖を思い、その徳を修めよ」と。五代將軍綱吉は「武家諸法度〔天和令1683〕」第一条「文武忠孝を励まし、礼儀を正すべきこと」と改め統治を強めた。上山初代藤井松平信通の兄忠之の古河領地没収はこの施策に関わっていた。

中国の朱子学は、「格物致知」（物の理の本質を窮めて知識を積む）より出発し、「その意を誠にし、その心を正し、その身を修め、その家を斉え、その国を治め、天下を平らかにする」主知主義思考が顕著。さらには「餓死は事きわめて小、失節は事きわめて大、餓死は云うにたらない、節を失うことは大問題」という厳格倫理を構成し、主君への忠節を最大限要求した。信亨代に幽閉獄死した新右衛門の母への孝、郷土上山藩への愛郷心も誠に強かった。

家老代だった金子六左衛門（萬嶽）の職場放棄の場合はどうか。六左衛門は、同輩が誅伐されないように手だてを講じて信亨侯に諫言、その後上山藩を離れた。儒教に「父子天合」「君子義合」の命題がある。『礼記』に父が間違っただけの行いをした折りに子は「三度諫めて聴かざれば号泣して従う」。君に対し臣は「三度諫めて聴かざれば、すなわち逃る」という「三諫」の項がある。六左衛門は主君への諫言を行った後に寛政六年（1794）退隠、もとより禅学、兵学を修めていたが、江戸に出て和歌俳諧謡曲の師となり多くの門人を指導した。

八代將軍吉宗の時代（1716～1745）には寺子屋教科書に「孝順父母」「尊敬長上」など『六諭衍義大意』（享保七年1722）が使用され、庶民にも儒教は普及していた。中村新右衛門、金子六左衛門は名家武家としてもとより儒教に基づき仕えていた。

しかし、ここに一つの不可解な嶺、というより深淵がある。「君君たらずとも臣臣たらずるべからず」（家臣は一心に主君に仕えよ）。譜代上山藩主松平信亨侯の場合どうなのか。將軍家に対し、家臣に対し。結論的にいえば理解しがたい。信亨侯は、和歌を愛した。

仙石高仙寺（真言宗）に宝物（書簡）がある。初出だが、明和七年（1770）春、住職育昌宛に「いと尊き法の師なり」、続けて寺のしだれ桜（現市指定文化財）を愛で詠んだ。

寺旧りぬ軒端の春の糸桜 御法の蔭やとめて咲くらん

文芸を愛した信亨は度々訪れて祈願した。子信古

は家臣「幽閉獄死」のわだかまりが解けなかったのか、天明四年（1784）その高仙寺に「御霊之宮」を祀った。天明といえば東北地方を中心に90万人余が餓死者をだした大飢饉のさなか。

さて、『御傳記』には信亨侯と老中松平定信は交流があったと記す。いつの頃のことか。定信は、天明七年（1787）將軍家斉のもとで老中首座、重商主義の旧田沼系を一掃して「寛政の改革」を行った。信亨が年長で、大坂加番明和元年（1764）～安永八年（1779）にかけ五回加番勤役を勤めたが、大坂への上り下りには將軍に拝謁する作法なのでいずれかの際か。上山の「寛政の政変」は寛政二年（1790）から同五年（1793）、信亨侯は寛政二年（1790）強制隠居。定信と信亨の接触は、定信が西丸住みで田安家から白河松平家へ養子として出された頃とも推察されるのだが。

しかし、『御傳記』に定信公、信亨に言うには「貴君は政の才ありと云えども恨むらくは禄小にして且つ叙任に序あり。今急に取り立て易からず。奏者番を勤むべし」。信亨悦ばず「人を挙ぐるは閥閥功勞をもってすべきではない」。以後、交わり旧のごとくならず、定信公は質素倏約で財政改革をなしたが、信亨侯はみやびを好み「心学」に心を寄せ家政を主としなかった、と記す。この記述では、定信は老中の言いようである（注：定信「宇下人言」未見）。

今回のテーマは「政変」と「改革」。この深淵に儒教が潜んでいた。「禄小にして叙任の序」（格式・名を重んじる）と定信は言い、信亨は「心学」を好んだという。定信は、前代の老中田沼意次時代の重商主義を唾棄し、朱子学（術語「格物致知」＝「性即理」）により「寛政異学の禁」、綱紀肅正を図った。方や信亨は藤井松平家代々の「心学」熊沢蕃山系譜の陽明（王陽明）学（術語「性即心」「良知実現」「知行合一」）だっただろう。朱子学は窮理統制に傾き、陽明学は外に実現しようとする学派で「諸事を正して、生まれつきの良知を発揮する」のが王陽明の考え方。老中松平定信も流通経済に対応せず改革は失敗に終わった。しかし、松平信亨も凶作にもかかわらず藩主として人倫不明な点が多く、また先祖に関わる怨念めいたものがあって、奸党藩医陪臣云うがままに御家伝来の儒書軍書売り払い奢侈放蕩、財政破綻させた。陽明学を掘り下げても顔かせるものは出てこなかったのである。

※参照文献：「朱子学と陽明学」（島田虔次著）、「孝経」（橋本秀美著）、「論語と將軍」（堀口菜純著）、高仙寺宝物「松平信亨書簡」、市史資料「藤井御傳記」①、「年代略記」②、「上山藩内訌事件資料」⑤、他。